

# 道小だより

第578号

2024年7月

藤井寺市立道明寺小学校

## 自分の思いを言葉で表現できる子どもの育成

### 「話して できたよ わかったよ」対話から深い学びへ

道明寺小学校では、昨年度より「語彙力を高めるための活動」に重点をおいて指導を行っています。「語彙力」とは、さまざまな言葉の意味を理解し、必要に応じて適切に使いこなす力のことです。言葉を知り、言葉を使いこなせることができる数が増えると語彙力が高いと言われます。

また、斎藤孝著「12歳までに知っておきたい語彙力図鑑」には次のような言葉が掲載されています。

語彙力を、色鉛筆にたとえてみよう。目の前にある風景を描くためには、たくさんの方が便利だね。だけど、「やばい」と「すごい」と「うざい」の3色しかなかったら、実物とはかけ離れた残念な絵になってしまう。それだけでなく、3色しかわからないと、他の人が描いた絵をきちんと理解することも難しくなるよね。



道明寺小学校の先生たちは、1人ひとりが1教科の研究教科を定めて授業研究を進めています。そうした中で、昨年度より取り組んでいる「語彙力を高めるための活動」を意識して、各教科の学習において「対話を通じてめあてにせまる姿」や「個別最適な学習場面を取り入れた逆向き設計の単元計画」を進めること、各教科で「学習サポートシート」を作成するなど、日常生活や各教科の学習で活用できる言葉の力を伸ばそうとしています。

具体的には、毎日1時間目の前に行う朝学習の時間を月曜日「読みタイム」、水曜日「書きタイム」、木曜日「話しタイム」、金曜日「知りタイム」と設定し、「読む・聞く・書く・話す」活動にコツコツと取り組みます。また、各教科の時間に「言葉シート」を活用して、自分で言葉を選び、文を書く活動を行います。普段使っている言葉だけでなく、似たような言葉なども知り、言葉を使える子どもたちの育成に取り組んでおります。日々の言葉がけや会話、学習からたくさんの言葉を知り、使いこなすことができるような子どもたちに育ってほしいです。

